



ミカンの皮のしるが目に入ると、しみるのはなぜ

ミカンの皮のしるが、目をしげきするから

ミカンの皮のしるが目に入ると、しみたり、なみだが出たり、痛いと感じたりするのは、ミカンの皮のしる(ミカン油)が、目をしげきするからです。

目のねん膜や、目のいちばん前のほうの角膜(黒目ともいう)は、体の中でも、最も感じのするどいところですから、皮ふなどにとっては、少しもしげきを感じないほどのものでも、強いしげきとなって、しみたり、痛いと感じたりするのです。

なみだは、しょっぱいのに、目にしみないのは

なみだの中には、ほんの少しですが、塩分がふくまれているため、しょっぱいのです。

ではなぜ、目にしみないのかというと、ふくまれている塩分が、ひじょうに少ないことと、なみだは、生まれたときから、ずっと流れ続けているので、目が感じなくなっているためです。ですから、同じように塩分をふくんでいる、海水の場合には、少しでも目に入ると、目にしみたり、痛かったりしますし、なみだ以外の物が入ると、やはり、しみたり痛かったりします。しかし、そんなときには、なみだが目の表面を流れて、それらを洗い流し、目をいつもの状態にしてくれるのです。

また、なみだは、泣いたときだけでなく、いつも目の表面を少しずつ流れていて、ごみを取ったり、ばい菌が入ると殺したりして、わたしたちの目を守っています。

この、目の表面についているばい菌を殺す、薬のようなものは、リゾチームとよばれるものです。(監修・保志 宏)

